

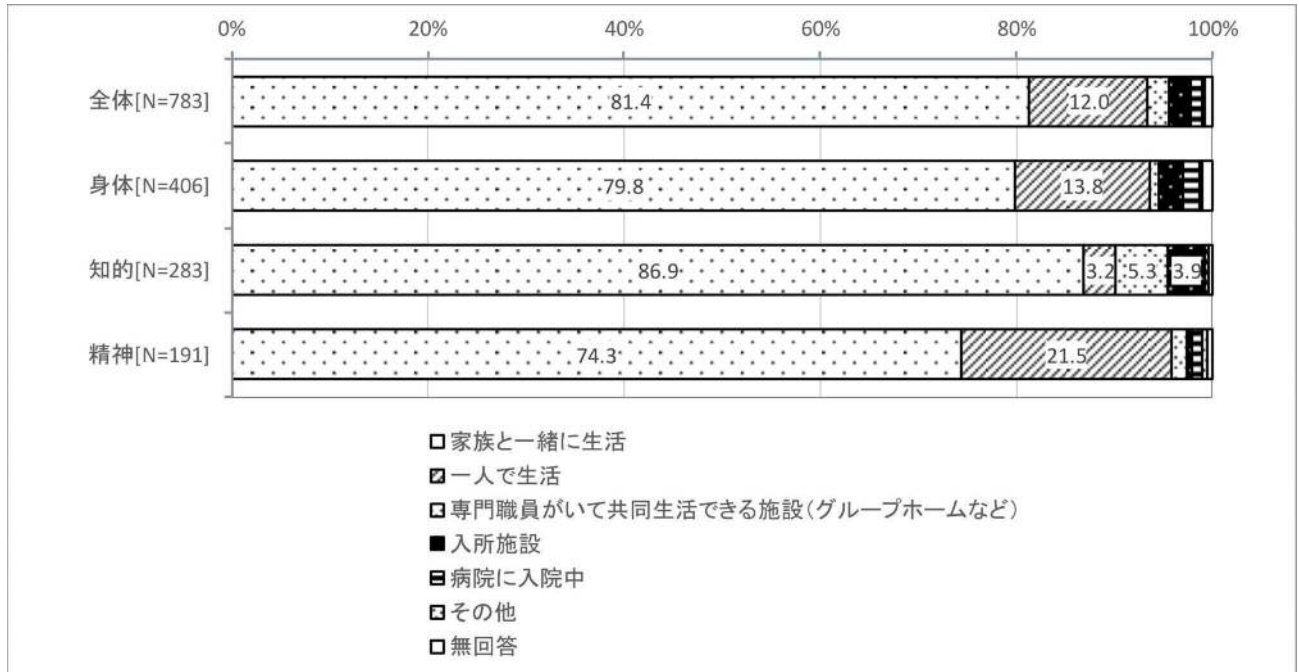
(2) 生活について

① 現在生活している場所

現在生活している場所については、「家族と一緒に生活」が81.4%、「一人で生活」が12.0%となっています。

知的障がいのある人は「家族と一緒に生活」、精神障がいのある人は「一人で生活」の割合が他の障がい種別に比べてやや高くなっています。

図表 13 現在生活している場所[N=783]



前回調査と比較すると、知的障がい、精神障がいのある人は「家族と一緒に生活している」の割合が高くなっています。また、知的障がいのある人では、「入所施設」の割合が低くなっています。

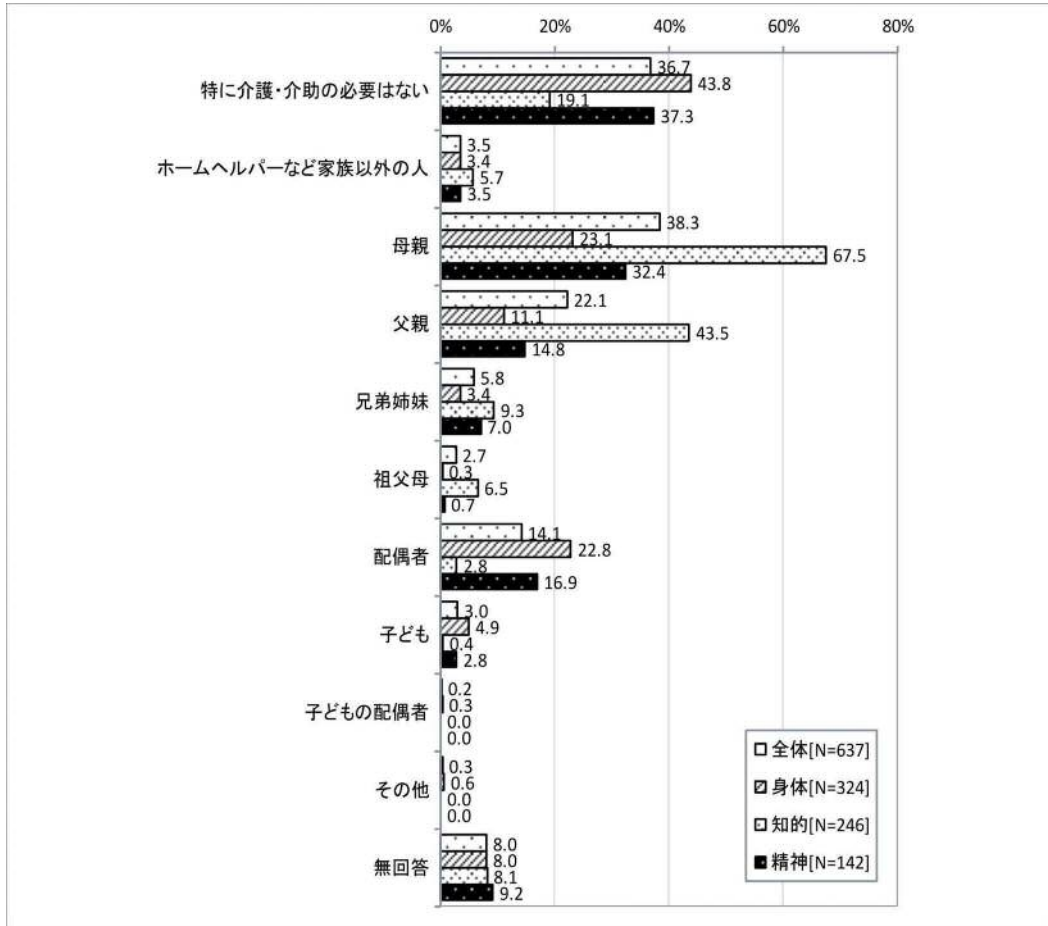
図表 14 現在生活している場所（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度
N=	429	406	266	283	159	191
家族と一緒に生活	81.4	79.8	80.8	86.9	69.2	74.3
一人で生活	12.6	13.8	1.9	3.2	25.2	21.5
専門職員がいて共同生活できる施設(グループホームなど)	0.7	1.0	3.4	5.3	0.0	1.6
入所施設	3.0	2.5	11.7	3.9	2.5	0.5
病院に入院中	1.6	1.7	1.9	0.4	2.5	1.0
その他	0.2	0.2	0.4	0.0	0.6	0.5
無回答	0.5	1.0	0.0	0.4	0.0	0.5

② 主な介護・介助者

「家族と一緒に生活している」と回答した人の主な介護・介助をしている人は、「母親」が38.3%、「特に介護・介助の必要はない」が36.7%、「父親」が22.1%となっています。
知的障がいのある人は「母親」「父親」の割合が高くなっています。

図表 15 主な介護・介助者[N=637]（複数回答）



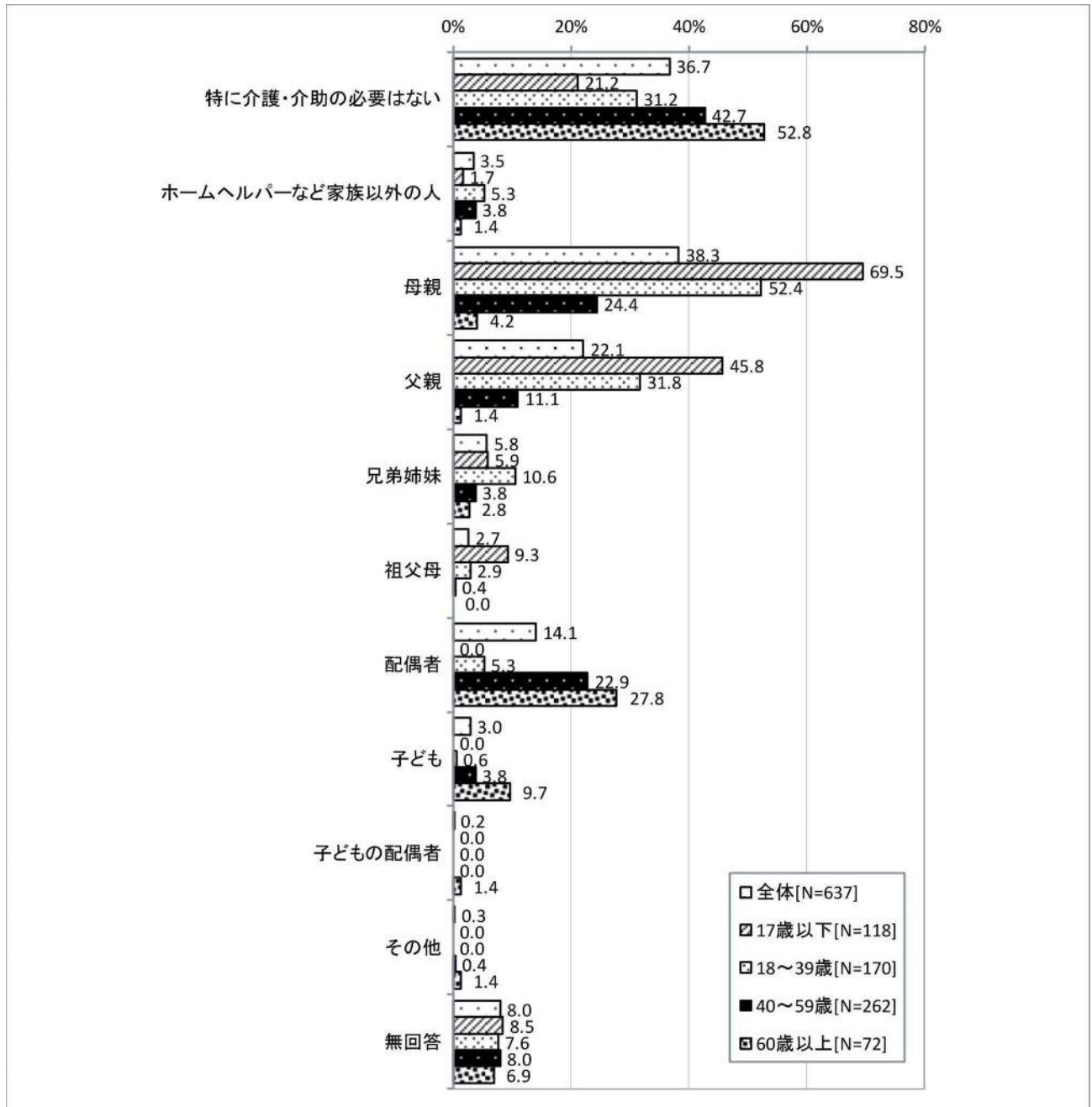
前回調査と比較すると、精神障がいのある人は「配偶者」の割合が高くなっています。一方、身体障がいのある人では「配偶者」の割合が低くなっています。

図表 16 主な介護・介助者（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度
N=	349	324	215	246	110	142
特に介護・介助の必要はない	42.4	43.8	15.3	19.1	35.5	37.3
ホームヘルパーなど家族以外の人	2.6	3.4	5.6	5.7	4.5	3.5
母親	25.5	23.1	76.3	67.5	45.5	32.4
父親	11.7	11.1	43.3	43.5	26.4	14.8
兄弟姉妹	6.3	3.4	14.4	9.3	8.2	7.0
祖父母	1.4	0.3	7.9	6.5	0.0	0.7
配偶者	27.8	22.8	1.9	2.8	11.8	16.9
子ども	6.0	4.9	1.4	0.4	2.7	2.8
子どもの配偶者	0.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.4	0.6	0.5	0.0	0.9	0.0
無回答	1.4	8.0	0.5	8.1	0.9	9.2

年齢別にみると、39歳以下の人では「母親」「父親」の割合が高く、40歳以上の人では「配偶者」の割合が高くなっています。

図表 17 主な介護・介助者[N=637]（複数回答）



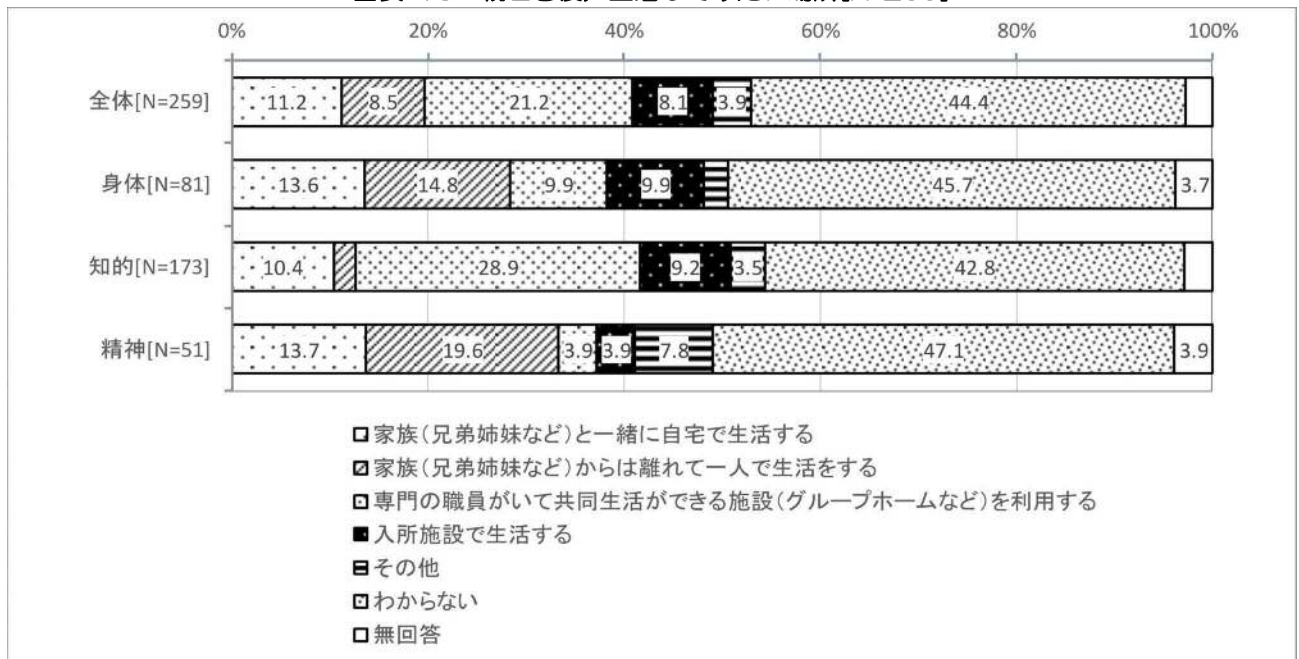
③ 親亡き後、生活してみたい場所

主に介護・介助している人が「母親」「父親」と回答した人に、親亡き後、どのような場所で生活してみたいか聞いたところ、「わからない」が44.4%、「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用する」が21.2%、「家族（兄弟姉妹など）と一緒に自宅で生活する」が11.2%となっています。

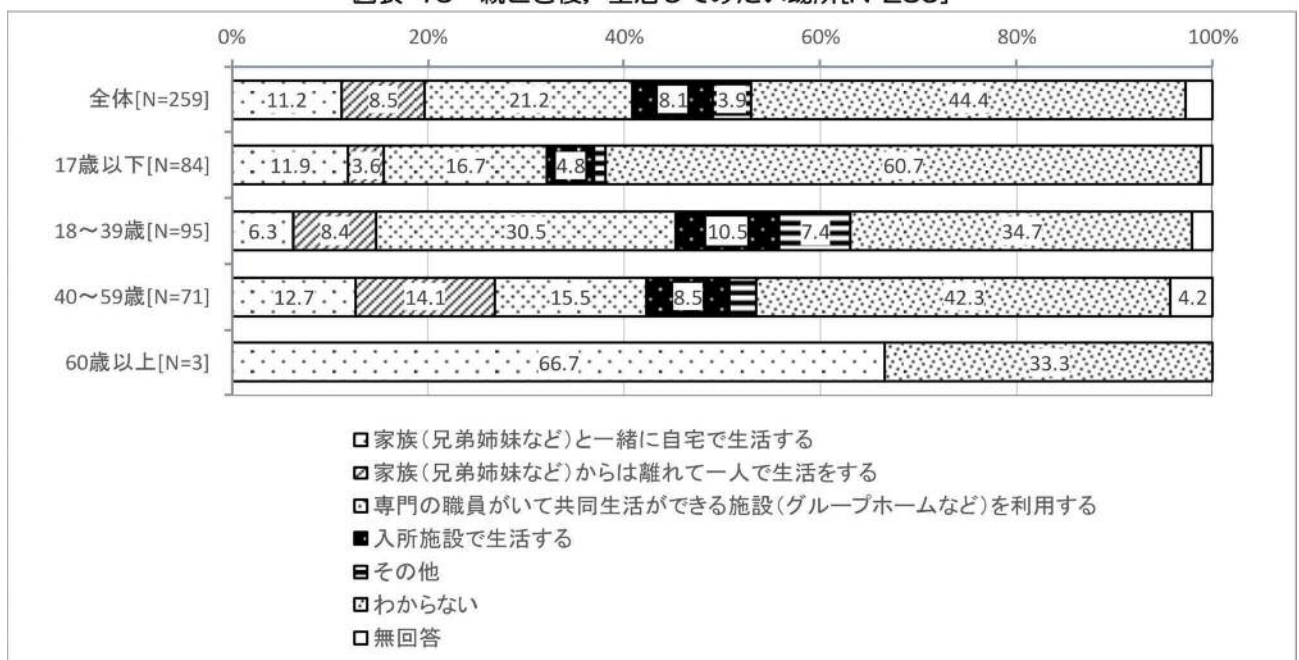
知的障がいのある人は「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用する」の割合が、精神障がいのある人は「家族（兄弟姉妹など）からは離れて一人で生活をする」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、18～39歳の方は、「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用する」の割合が高くなっています。

図表 18 親亡き後、生活してみたい場所[N=259]



図表 19 親亡き後、生活してみたい場所[N=259]

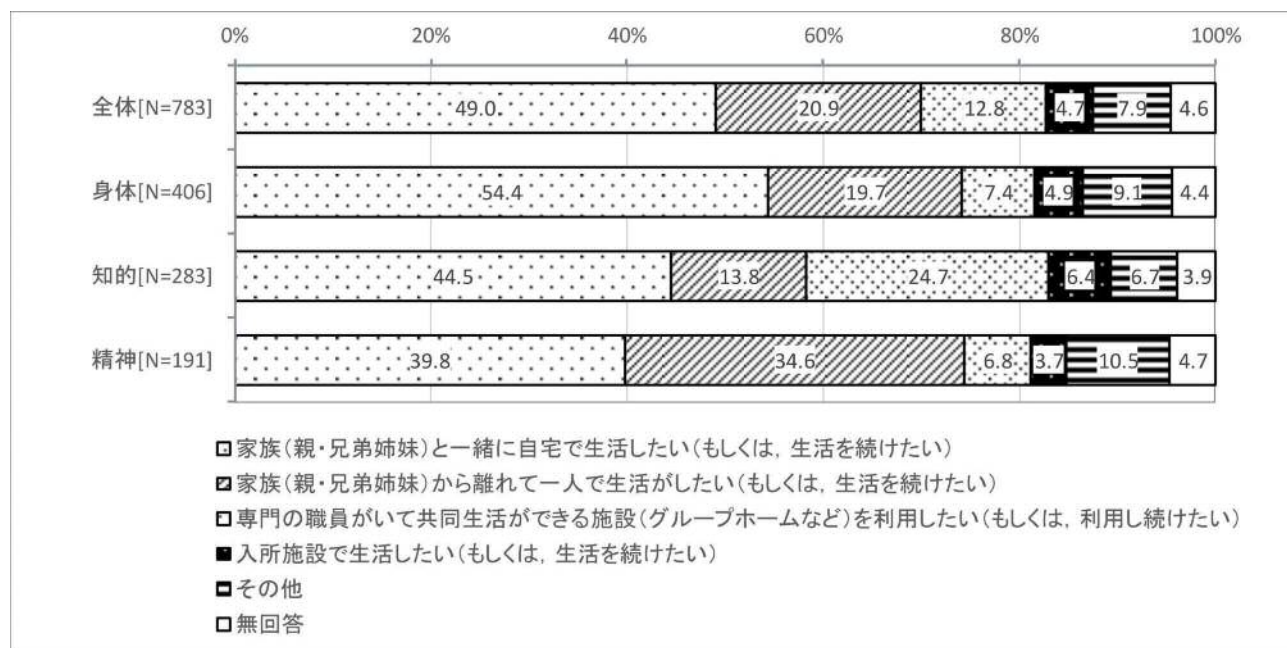


④ 将来生活してみたい場所

将来的にどのような場所で生活してみたいか聞いたところ、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい（もしくは、生活を続けたい）」が49.0%、「家族（親・兄弟姉妹）から離れて一人で生活がしたい（もしくは、生活を続けたい）」が20.9%となっています。

知的障がいのある人は「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい（もしくは、利用し続けたい）」の割合が他の障がい種別よりも高くなっています。

図表 20 将来生活してみたい場所[N=783]



前回調査と比較すると、すべての障がい種別において、「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい（もしくは、利用し続けたい）」の割合が高くなっています。

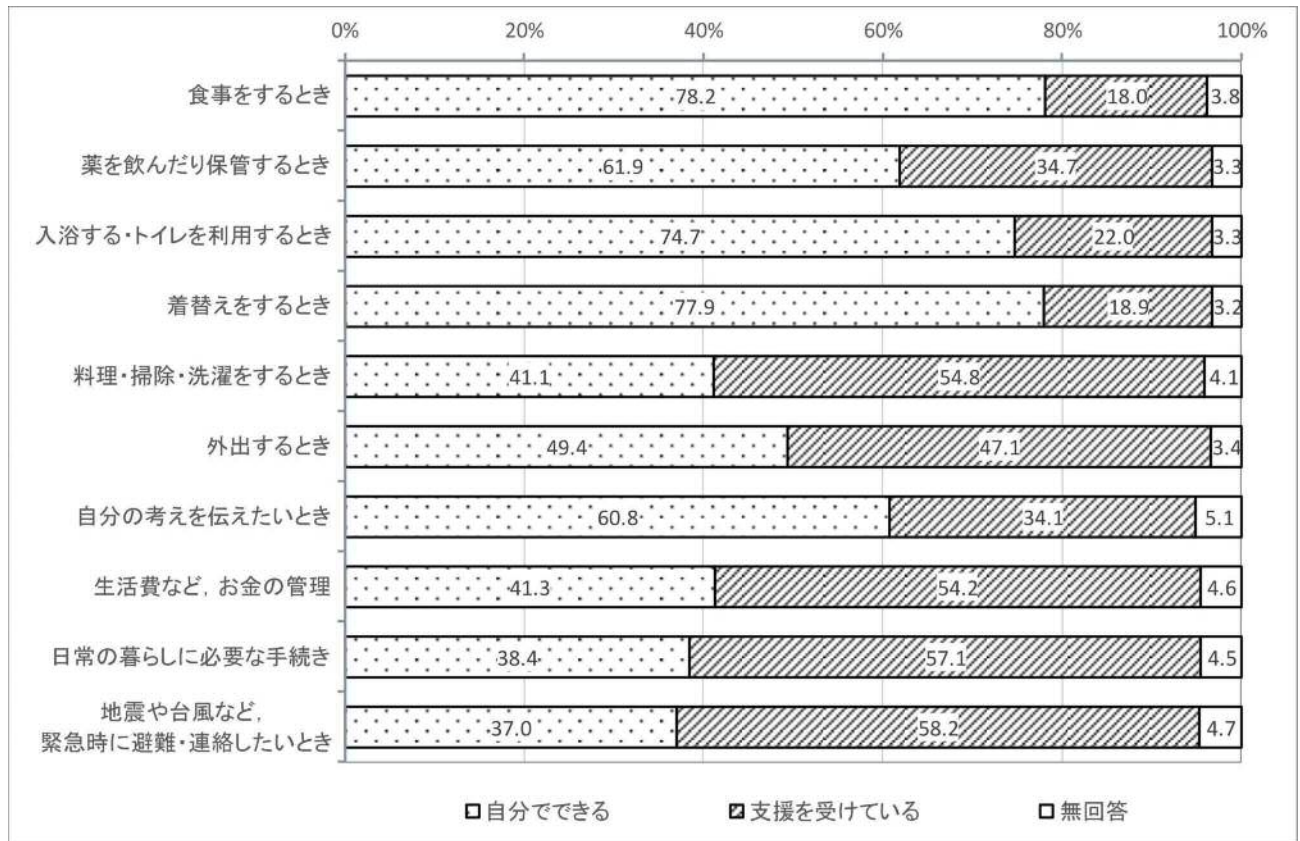
図表 21 将来生活してみたい場所（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度
N=	429	406	266	283	159	191
家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい（もしくは、生活を続けたい）	62.7	54.4	53.4	44.5	39.0	39.8
家族（親・兄弟姉妹）から離れて一人で生活がしたい（もしくは、生活を続けたい）	15.9	19.7	10.9	13.8	37.1	34.6
専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい（もしくは、利用し続けたい）	3.0	7.4	15.8	24.7	3.8	6.8
入所施設で生活したい（もしくは、生活を続けたい）	3.3	4.9	7.1	6.4	4.4	3.7
その他	8.4	9.1	6.0	6.7	8.8	10.5
無回答	6.8	4.4	6.8	3.9	6.9	4.7

⑤ 介護・介助の状況

生活の中での介護・介助の状況は、「地震や台風など、緊急時に避難・連絡したいとき」「日常の暮らしに必要な事務手続き」「料理・掃除・洗濯をするとき」「生活費など、お金の管理」などで支援を受けている人が比較的多くなっています。支援者としては、いずれも「家族や親戚」の割合が高くなっています。

図表 22 介護・介助の状況[N=783]（複数回答）



図表 23 介護・介助の状況[N=783]（複数回答）

	自分でできる	支援を受けている	支援を受けている					無回答
			家族や親戚	ホームヘルパー	ボランティア	友だち・知り合い・近所の人	施設の職員	
食事をするとき	78.2	18.0	16.2	0.9	0.0	0.3	3.8	3.8
薬を飲んだり保管するとき	61.9	34.7	31.4	0.5	0.0	0.3	5.9	3.3
入浴する・トイレを利用するとき	74.7	22.0	19.0	1.9	0.0	0.4	5.6	3.3
着替えをするとき	77.9	18.9	16.9	1.3	0.0	0.1	4.5	3.2
料理・掃除・洗濯をするとき	41.1	54.8	48.7	3.2	0.0	0.5	5.4	4.1
外出するとき	49.4	47.1	43.0	7.0	0.4	1.5	5.1	3.4
自分の考えを伝えたいとき	60.8	34.1	31.2	1.7	0.4	1.1	6.4	5.1
生活費など、お金の管理	41.3	54.2	52.0	0.8	0.1	0.3	4.2	4.6
日常の暮らしに必要な手続き	38.4	57.1	54.3	0.9	0.0	0.5	4.6	4.5
地震や台風など、緊急時に避難・連絡したいとき	37.0	58.2	53.9	1.3	0.5	2.4	7.9	4.7

知的障がいのある人は「家族や親戚」から支援を受けている割合が高くなっています。
 身体障がいのある人は、「自分でできる」と回答している割合が高くなっています。
 また、精神障がいのある人は、「生活費など、お金の管理」「日常の暮らしに必要な手続き」の部分で支援を受けている割合が高くなっています。

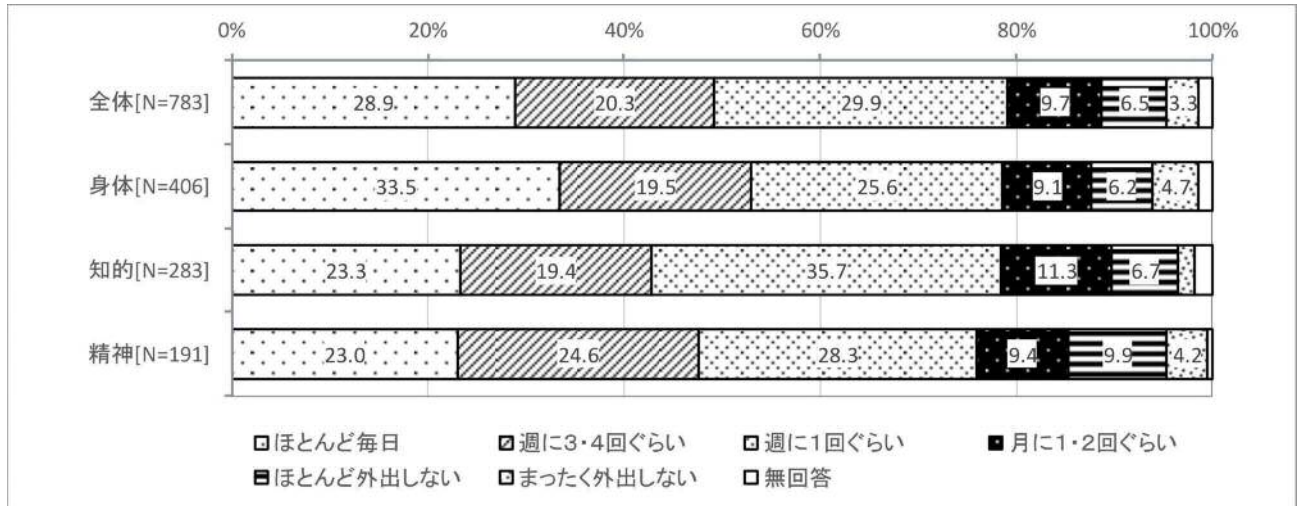
図表 24 介護・介助の状況[N=783]（複数回答）

		N=	自分で できる	支援を 受けて いる	支援を受けている					無回答
					家族や 親戚	ホーム ヘルパー	ボラン ティア	友だち・ 知り合い・ 近所の人	施設の 職員	
食事をするとき	全体	783	78.2	18.0	16.2	0.9	0.0	0.3	3.8	3.8
	身体	406	80.8	14.5	12.6	1.0	0.0	0.0	4.4	4.7
	知的	283	67.5	30.7	28.3	1.4	0.0	0.7	7.4	1.8
	精神	191	81.2	13.6	13.1	0.5	0.0	0.0	1.0	5.2
薬を飲んだり 保管するとき	全体	783	61.9	34.7	31.4	0.5	0.0	0.3	5.9	3.3
	身体	406	76.8	19.2	16.7	0.5	0.0	0.0	5.2	3.9
	知的	283	28.3	70.0	65.0	0.7	0.0	0.0	11.3	1.8
	精神	191	75.4	19.9	18.3	0.0	0.0	0.5	2.6	4.7
入浴する・ トイレを利用 するとき	全体	783	74.7	22.0	19.0	1.9	0.0	0.4	5.6	3.3
	身体	406	77.8	17.7	14.3	2.7	0.0	0.2	5.9	4.4
	知的	283	55.1	43.8	39.9	3.5	0.0	0.4	11.3	1.1
	精神	191	88.5	5.8	5.8	0.5	0.0	0.5	1.0	5.8
着替えをする とき	全体	783	77.9	18.9	16.9	1.3	0.0	0.1	4.5	3.2
	身体	406	79.1	16.7	14.3	2.2	0.0	0.0	4.9	4.2
	知的	283	63.6	35.3	32.5	2.5	0.0	0.4	8.8	1.1
	精神	191	88.0	6.8	6.8	0.5	0.0	0.0	1.0	5.2
料理・掃除・ 洗濯をするとき	全体	783	41.1	54.8	48.7	3.2	0.0	0.5	5.4	4.1
	身体	406	56.7	37.9	33.0	3.7	0.0	0.2	4.2	5.4
	知的	283	11.3	87.3	79.5	3.5	0.0	0.4	9.5	1.4
	精神	191	42.9	51.3	42.9	5.2	0.0	1.0	3.7	5.8
外出するとき	全体	783	49.4	47.1	43.0	7.0	0.4	1.5	5.1	3.4
	身体	406	59.6	35.7	31.5	6.2	0.5	1.5	3.7	4.7
	知的	283	20.1	78.8	73.1	14.1	0.4	0.7	11.0	1.1
	精神	191	61.3	34.0	29.8	4.7	0.0	3.1	1.6	4.7
自分の考えを 伝えたいとき	全体	783	60.8	34.1	31.2	1.7	0.4	1.1	6.4	5.1
	身体	406	73.4	20.2	18.2	1.7	0.2	0.7	3.9	6.4
	知的	283	32.9	64.7	60.1	3.9	0.7	1.1	13.8	2.5
	精神	191	60.7	31.9	28.3	1.0	0.5	1.6	4.7	7.3
生活費など、 お金の管理	全体	783	41.3	54.2	52.0	0.8	0.1	0.3	4.2	4.6
	身体	406	58.6	36.2	35.0	0.7	0.2	0.2	2.0	5.2
	知的	283	8.1	89.4	85.5	1.4	0.4	0.0	8.5	2.5
	精神	191	41.4	51.8	49.2	0.5	0.0	0.5	3.7	6.8
日常の暮らしに 必要な手続き	全体	783	38.4	57.1	54.3	0.9	0.0	0.5	4.6	4.5
	身体	406	53.7	41.1	39.7	1.0	0.0	0.2	2.2	5.2
	知的	283	7.1	90.5	86.9	1.4	0.0	0.4	7.8	2.5
	精神	191	41.9	51.8	47.1	1.0	0.0	1.0	4.7	6.3
地震や台風 など、緊急時に 避難・連絡 したいとき	全体	783	37.0	58.2	53.9	1.3	0.5	2.4	7.9	4.7
	身体	406	49.8	45.3	41.4	1.5	1.0	2.0	5.9	4.9
	知的	283	8.5	89.0	84.8	2.1	0.0	2.1	13.8	2.5
	精神	191	41.9	52.4	46.6	1.0	0.5	3.1	6.3	5.8

⑥ 外出の頻度

外出の頻度は、「週に1回くらい」が29.9%、「ほとんど毎日」が28.9%、「週に3・4回くらい」が20.3%となっています。一方、「ほとんど外出しない」は6.5%、「まったく外出しない」は3.3%となっています。

図表 25 外出の頻度[N=783]



前回調査と比較すると、すべての障がい種別において「ほとんど毎日」の割合が低く、「週に1回くらい」の割合が高くなっています。

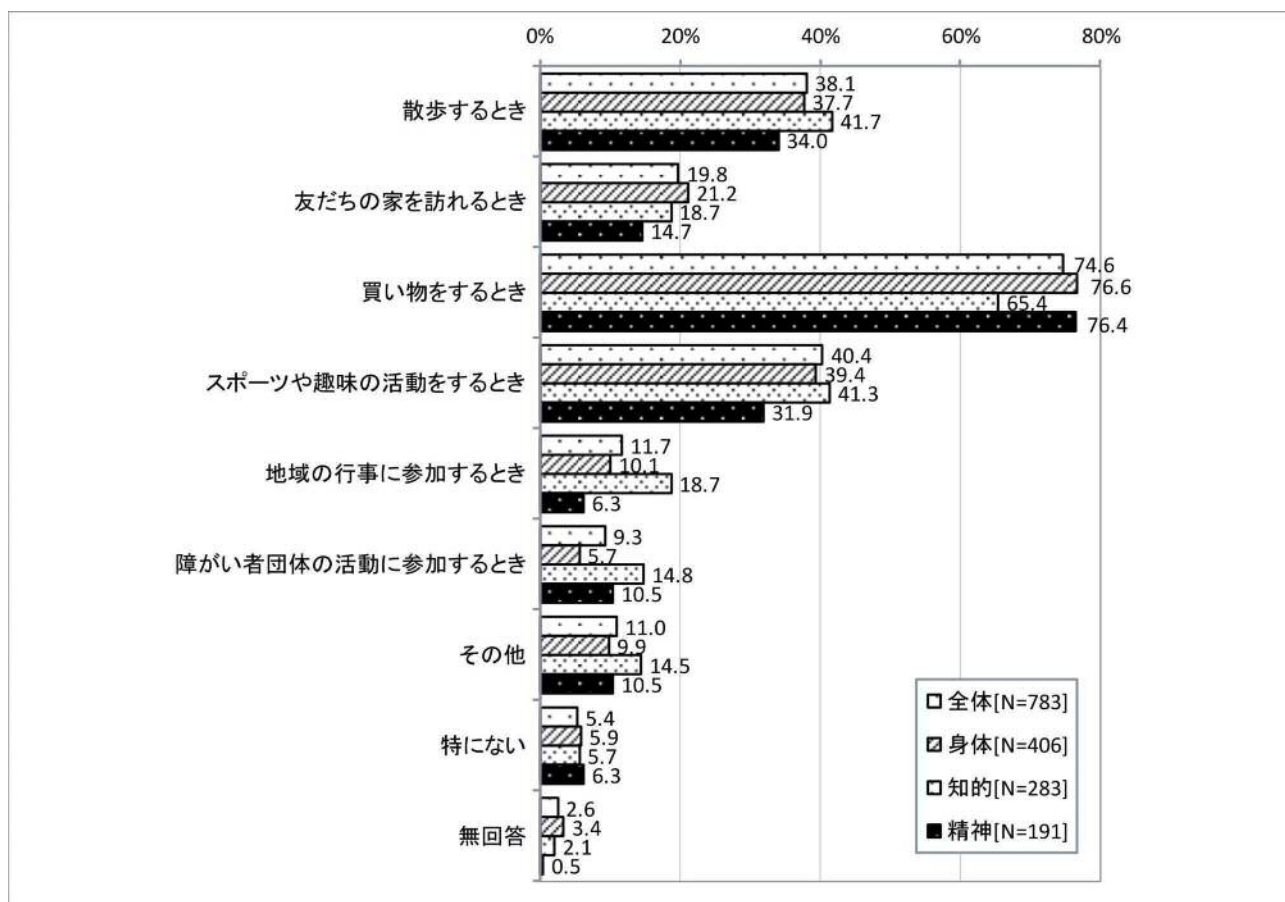
図表 26 外出の頻度（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度
N=	429	406	266	283	159	191
ほとんど毎日	40.8	33.5	34.2	23.3	29.6	23.0
週に3・4回くらい	21.0	19.5	19.2	19.4	23.9	24.6
週に1回くらい	18.2	25.6	25.2	35.7	26.4	28.3
月に1・2回くらい	9.6	9.1	14.3	11.3	10.7	9.4
ほとんど外出しない	6.8	6.2	4.9	6.7	7.5	9.9
まったく外出しない	2.1	4.7	1.1	1.8	1.3	4.2
無回答	1.6	1.5	1.1	1.8	0.6	0.5

⑦ 通学，通勤，通所や通院以外で外出したいと思うとき

通学，通勤，通所や通院以外で外出したいと思うときは，「買い物をするとき」が74.6%，「スポーツや趣味の活動をするとき」が40.4%，「散歩するとき」が38.1%となっています。

図表 27 通学，通勤，通所や通院以外で外出したいと思うとき[N=783]（複数回答）

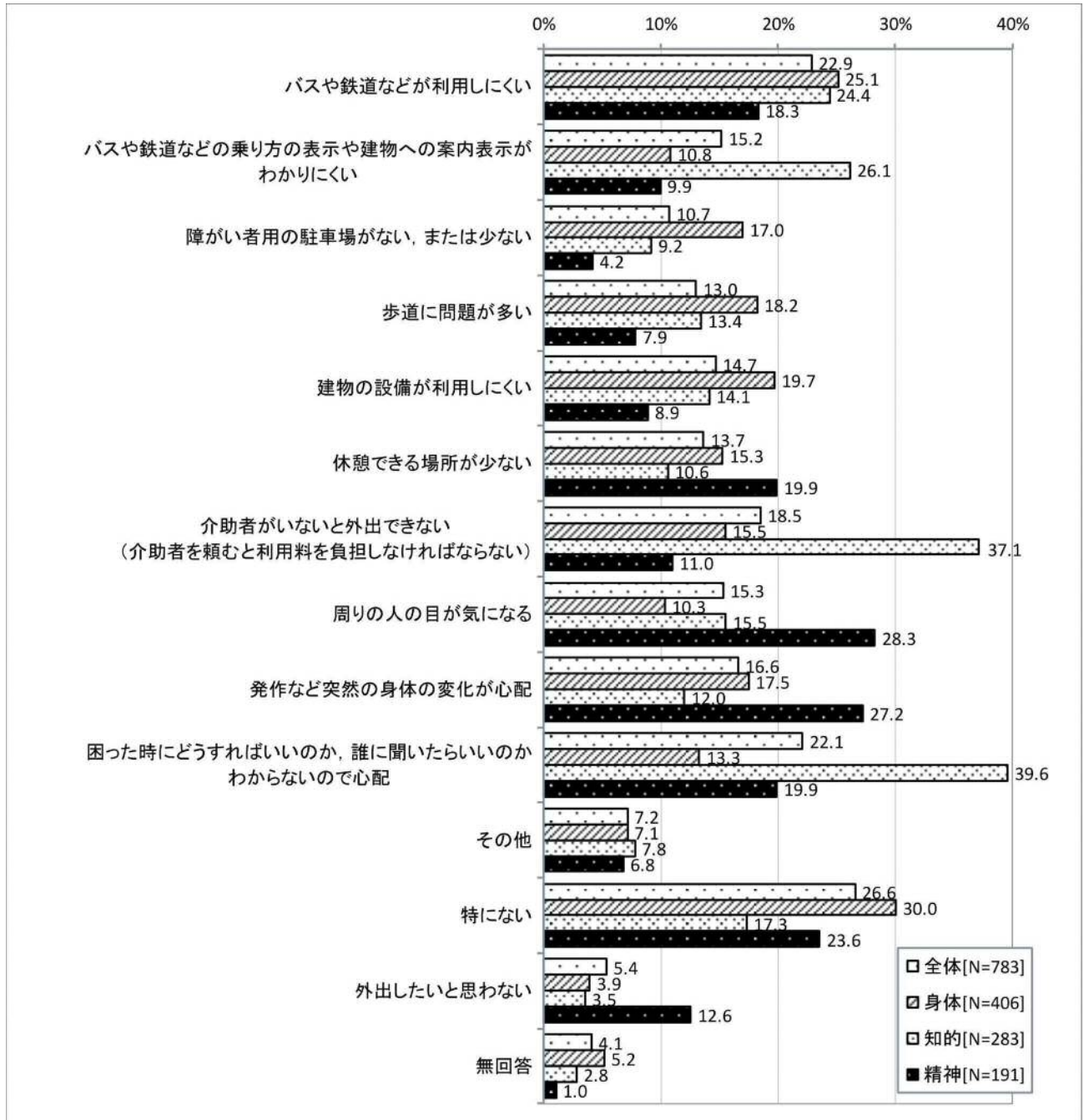


⑧ 外出するときに、困ったり、心配になったりすること

外出するときに、困ったり、心配になったりすることについては、「バスや鉄道などが利用しにくい」が22.9%、「困った時にどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配」が22.1%となっています。一方、「特にない」は26.6%となっています。

身体障がいのある人は、「バスや鉄道などが利用しにくい」が、知的障がいのある人は「困った時にどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配」「介助者がいないと外出できない（介助者を頼むと利用料を負担しなければならない）」「バスや鉄道などの乗り方の表示や建物への案内表示がわかりにくい」、精神障がいのある人は「周りの人の目が気になる」「発作など突然の身体の変化が心配」「外出したいと思わない」の割合が高くなっています。

図表 28 外出するときに、困ったり、心配になったりすること[N=783]（複数回答）



前回調査と比較すると、知的障がいのある人は「歩道に問題が多い」が、精神障がいのある人は「建物の設備が利用しにくい」の割合が高くなっています。すべての障がい種別において「バスや鉄道が利用しにくい」の割合が低くなっていますが、依然として割合は一番高くなっています。

一方、「障がい者用の駐車場がない、または少ない」「建物の設備が利用しにくい」の回答割合はやや高くなっています。

図表 29 外出するときに、困ったり、心配になったりすること（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度
N=	429	406	266	283	159	191
バスや鉄道などが利用しにくい(路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど)	26.1	25.1	30.8	24.4	20.8	18.3
バスや鉄道などの乗り方の表示や建物への案内表示がわかりにくい	10.0	10.8	30.5	26.1	14.5	9.9
障がい者用の駐車場がない、または少ない	15.2	17.0	7.1	9.2	3.1	4.2
歩道に問題が多い(せまい、障がい物が多い、誘導ブロックがないなど)	19.3	18.2	9.4	13.4	8.8	7.9
建物の設備が利用しにくい(階段、トイレなど)	18.9	19.7	12.4	14.1	5.0	8.9
休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)	13.5	15.3	10.5	10.6	19.5	19.9
介助者がいないと外出できない (介助者を頼むと利用料を負担しなければならない)	12.1	15.5	36.5	37.1	10.1	11.0
周りの人の目が気になる	9.6	10.3	16.5	15.5	30.8	28.3
発作など突然の身体の変化が心配	15.2	17.5	10.2	12.0	24.5	27.2
困った時にどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのか わからないので心配	10.0	13.3	38.7	39.6	20.1	19.9
その他	8.6	7.1	6.4	7.8	3.8	6.8
特になし	30.3	30.0	16.2	17.3	34.0	23.6
外出したいと思わない	4.0	3.9	3.8	3.5	10.7	12.6
無回答	4.2	5.2	6.8	2.8	1.9	1.0

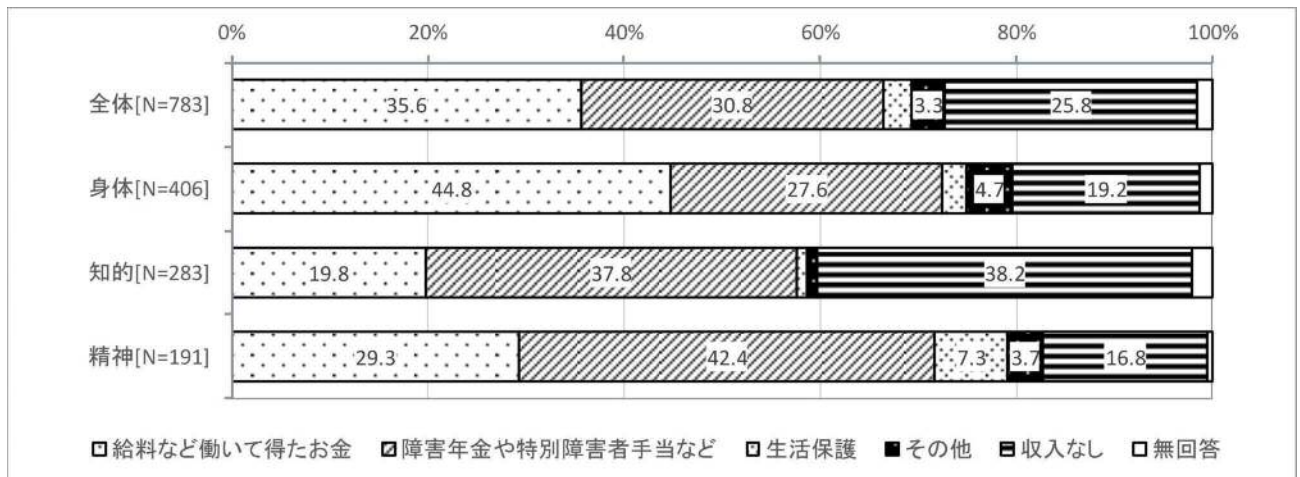
⑨ 収入の中で最も多いもの

自らの収入の中で最も多いものは、「給料など働いて得たお金」が35.6%、「障害年金や特別障害者手当など」が30.8%、「収入なし」が25.8%となっています。

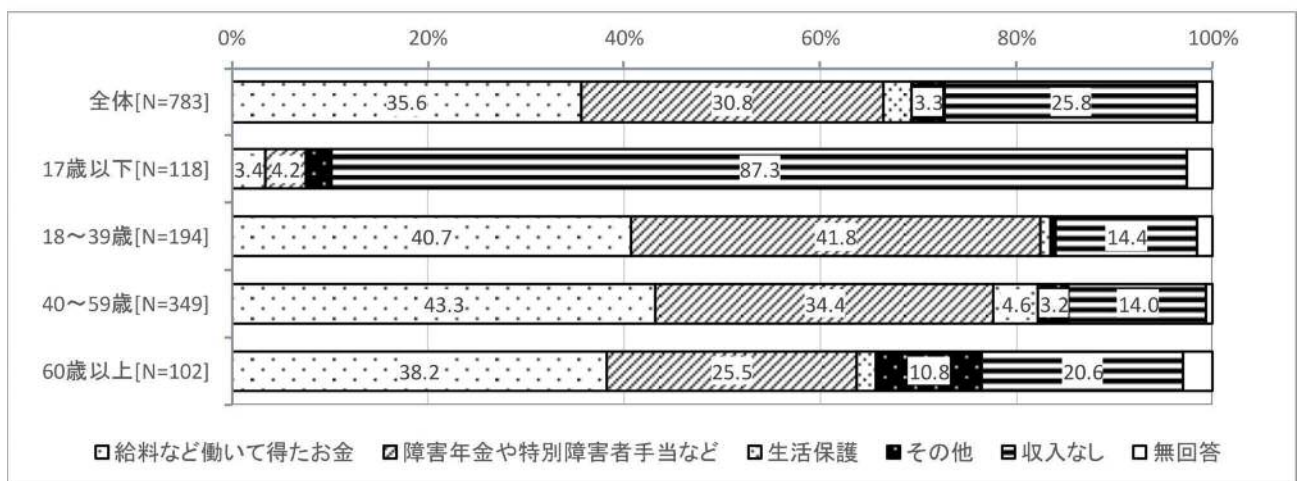
知的障がいのある人は「収入なし」、精神障がいのある人は「障害年金や特別障害者手当など」の割合が高くなっています。

年齢別の主な収入源は、18～39歳では「障害年金や特別障害者手当など」と「給料など働いて得たお金」がほぼ同割合、40歳以上では「給料など働いて得たお金」となっています。

図表 30 収入の中で最も多いもの[N=783]



図表 31 収入の中で最も多いもの[N=783]



前回調査と比較すると、すべての障がい種別で「給料など働いて得たお金」「収入なし」の割合が高く、「障害年金や特別障害者手当など」の割合が低くなっています。

図表 32 収入の中で最も多いもの（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度
N=	429	406	266	283	159	191
給料など働いて得たお金	42.0	44.8	13.5	19.8	20.8	29.3
障害年金や特別障害者手当など	29.4	27.6	42.9	37.8	44.7	42.4
家族などからの援助※	6.1		7.9		11.9	
生活保護	2.1	2.5	1.5	1.1	9.4	7.3
その他	4.2	4.7	0.4	1.1	0.6	3.7
収入なし	15.2	19.2	30.1	38.2	12.6	16.8
無回答	1.2	1.2	3.8	2.1	0.0	0.5

※「家族などからの援助」の選択肢は今回調査では含めていない